琉球大学学術リポジトリ

高齢者自殺の抑制・促進にかかわる心理社会的要因の検討

メタデータ	言語: 出版者: 名嘉幸一 公開日: 2007-04-09 キーワード (Ja): 高齢者, 自殺, 生きがい, 長寿, 抑うつ, メンタルヘルス, ソーシャルサポート キーワード (En): Elderly, Suicide, Depression, Mental health, Social support, Morale, Longivity, Community participation 作成者: 名嘉, 幸一, 和氣, 則江, 渡辺, 直樹, Naka, Koichi, Wake, Norie, Watanabe, Naoki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/312

高齢者自殺の抑制・促進にかかわる心理社会的要因の検討

（課題番号：13670375）

平成13年度～平成15年度科学研究費補助金（基盤研究（C）(2)）
研究成果報告書

平成16年3月

研究代表者　名　嘉　幸　一
（琉球大学医学部教授）

はしがき

本報告書は、平成13年～平成15年の3ヶ年間にわたり日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））の援助を受けて実施した横断研究（課題番号　13670375：高齢者自殺の抑制・促進にかかわる心理社会的要因の検討）の成果をまとめたものである。

平成14年12月18日に出された厚生労働省の自殺防止対策有識者懇談会による報告「自殺予防に向けての提言」でも言及されているように、近年の我が国における自殺死亡の急増は深刻で、その予防と対策は急務の課題になった。同報告書の第2章第3節でのべられているように、自殺予防わけてもうつ病対策等、心の健康に関する対策は肝要で、報告では地域におけるうつ病等対策の体制づくりについても触れられている。

本研究は日本で最も自殺死亡の多い秋田県の高齢者と、日本で最も高齢女性の自殺死亡が少ない沖縄県において同一の質問紙を用いた心の健康調査を行い、両者の比較を通して心の健康状態と自殺要因について検討を加えたものである。秋田県の調査では自殺を促進させる要因、沖縄県の調査では自殺を抑制させる要因の抽出をこころがけた。また長寿で知られる沖縄県の高齢者の生活からは“自殺予防”と“心の健康増進”についての情報を発信することをも意図した。

残念ながら沖縄県の高齢男性は最早“長寿”とはいえず、また、近年の沖縄高齢男性の自殺死亡は決して少ないとは言えない。自殺予防の先進県である秋田県から自殺防止活動の実践にあたっている方々の講演が沖縄で開催されるに至るほど、沖縄の自殺の問題も深刻になっている。

しかし、抑うつ尺度を用いての両地域の女性におけるこのような比較研究において、とりわけ自殺の一次予防では多くの示唆を含む有益な結果が得られている。本研究が日本の各地における高齢者の方々の心の健康増進や自殺予防にいくらかでも役立てば幸いである。

最後に、本研究のように異なる地域の高齢者の横断研究を行うには、多くの関係者のご理解とご協力が必要であった。それなしにはこのような調査および研究を遂行することは不可能であった。秋田県では1425名、沖縄県では160名の高齢者の方々に調査へのご協力をいただいた。このほか、両県市町村役場はもとより両地域の民生委員や保健福祉にかかわる人々をはじめ多くの方々の御支援・御協力を受けて調査は実施された。ここにあらためて深甚なる感謝の意を表させていただきます。

平成16年3月

研究代表者　　琉球大学医学部教授
名嘉幸一

【研究組織】

研究代表者：名嘉幸一　（琉球大学医学部臨床心理学教室教授）
研究分担者：和氣則江　（琉球大学医学部臨床心理学教室助手）
研究分担者：渡辺直樹　（聖マリアンナ医科大学助教授・現青森県立精神保健福祉センター副所長）
研究協力者：瀧澤　透　（琉球大学大学院医学研究科博士課程大学院生）
研究協力者：田口　学　（聖マリアンナ医科大学精神神経科研究員）
研究協力者：塩月亮子　（日本橋学館大学人文経営学部講師）
研究協力者:熊谷けい子（秋田県由利町福祉センター保健師）
研究協力者:正木みえ子（秋田県由利町福祉センター保健師）
研究協力者：洲鎌　実　（沖縄県本部町在宅介護支援センター所長）
研究協力者：篠藤潔仁　（沖縄県本部町在宅介護支援センター指導員）

【交付決定額（配分額）】

（金額単位：千円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 13 年度	1,400	0	1,400
平成 14 年度	1,200	0	1,200
平成 15 年度	900	0	900
総　計	3,500	0	3,500

【研究発表】

1．学会誌等

1）瀧澤透，名嘉幸一，和気則江，塩月亮子，嶺井政澄，渡辺直樹，田口学，松田竹央：高齢女性の自殺―その促進要因と抑制要因―　秋田県と沖縄県の高齢女性の心の健康に関する比較研究.（財）安田生命社会事業団研究論文集 通巻第37号 2001年度，pp.179-197，2002.

2）瀧澤透，名嘉幸一，和気則江，渡辺直樹，田口学，熊谷けい子：秋田県由利町における高齢者のストレスに関する一考察．秋田県農村医学会雑誌，48（1），pp.4-8，2002.

3）名嘉幸一：世界の最長寿地域・沖縄高齢女性のメンタルヘルス．女性心身医学，8（3），pp.261-266，2003.

4）瀧澤透，崎原盛造，名嘉幸一，和気則江，有泉誠，渡辺直樹，田口学：秋田県一農村におけるソーシャルサポートと健康、居住形態、および主観的幸福感との関連について，民族衛生，70（1），pp.18-30，2004.

2．口頭発表

1）瀧澤透，名嘉幸一，和気則江，嶺井政澄：沖縄県における市町村別自殺死亡の地域差に関する研究，第66回日本民族衛生学会総会（民族衛生第67号suppl.pp206-207），2001．11

2）瀧澤透，名嘉幸一，和気則江：沖縄県における自殺率と失業率の関連について，第29回沖縄心理学会総会（沖縄心理学研究第25号．　pp 21 - 22），2002．3

3）瀧澤透，名嘉幸一，和気則江，塩月亮子，嶺井政澄，渡辺直樹，田口学，松田竹央：高齢女性の自殺ーその促進要因と抑制要因ー，（財）安田生命社会事業団　第37回研究助成報告会，2002．7

4）Tohru Takizawa，Kouichi Naka，Norie Wake，Michel Kimblern, Hirosi Ishizu, Takao Yokota：Stress and Coping of the Aged People who Live in a Farm Village in Northeastern Japan，The 10th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine.（Taipei .Taiwan）2002．9

5）瀧澤透，名嘉幸一，和気則江，塩月亮子，松田竹央，嶺井政澄：秋田県と沖縄県の高齢女性の世帯形態に関する研究，第67回日本民族衛生学会総会，（民族衛生第68巻　suppl.pp110-111），2002．11

6）瀧澤透，名嘉幸一，和気則江，ミッシェル　キンバレン：沖縄県における自殺死亡の市町村別地域差について，第24回沖縄精神神経学会，2003．2

7）名嘉幸一：沖縄県における自殺の現状と予防対策ー疫学的研究からー，第24回沖縄精神神経学会シンポジウム，2003．2

8）瀧澤透，名嘉幸一，和気則江，渡辺直樹，田口学：秋田県南部一農村における高齢者のストレスについて，第44回日本心身医学会，2003．5

9）瀧澤透，名嘉幸一，和気則江，有泉誠，渡辺直樹，田口学：高齢者の主観的幸福感に与える環境要因について，第32回日本女性心身医学会学術集会，(女性心身医学，第8号（1）supple.pp47)，2003．6.

10）名嘉幸一：世界の最長寿地域・沖縄の高齢女性のメンタルヘルス，第32回日本女性心身医学会学術集会〈特別講演〉(女性心身医学，第8号(1) supple.pp25)．2003．6.

11）瀧澤透，渡辺直樹，田口学，竹之下由香，名嘉幸一，和気則江，有泉誠：秋田県南部一農村における高齢者の抑うつとその関連要因について，第52回東北公衆衛生学会（東北公衆衛生学会誌，第25号，pp55)，2003．7.

12）Tohru Takizawa, Kouichi Naka, Norie Wake, Naoki Watanabe, Manabu Taguchi, Seizou Sakihara, Makoto, Ariizumi:The Relationship between Social Support, Residential Form, Health and Subjective Well-being of some Elderly People in a Farming Village in Japan.American Association for Geriatric Psychiatry 17th Annual Meeting (Baltimore USA),2004.2.21-24.

3．出版物

1）名嘉幸一，和氣則江，瀧澤透，井樋裕子，嶺井政澄，松田竹央，上地かおり：本部町高齢者の暮らしと心の健康に関する調査．琉球大学医学部臨床心理学教室．2002年6月．

2）名嘉幸一，渡邊直樹，田口学，和氣則江，瀧澤透，熊谷けい子，正木みえ子，篠田和佳子：由利町高齢者の暮らしと心の健康に関する調査．琉球大学医学部臨床心理学教室．2002年8月．

【 Abstracts of Research Project 】

PSYCHOLOGICAL AND SOCIAL FACTORS AFFECTING SUICIDES AMONG THE ELDERLY

HEAD INVESTIGATOR : Koichi Naka, Ph. D., University of the Ryukyus, Faculty of Medicine, Department of Clinical Psychology, Professor

INVESTIGATORS : 1) Norie Wake, M.H.S, University of the Ryukyus, Faculty of Medicine, Department of Clinical Psycholoty, Instructor

2) Naoki Watanabe, M.D, Aomori Prefecture Mental Health Center, Vice Director (Prior : St. Marianna University, School of Medicine, Associate Professor)

SUMMARY OF RESEARCH RESULTS

A comparative study was conducted on the mental health of elderly citizens of Akita Prefecture, an area with the highest suicide rate in Japan, and Okinawa Prefecture, an area with the lowest suicide rate among elderly women in Japan. The primary purpose of the study was to elucidate the promoting factors for suicide in Akita Prefecture, and the suppressing factors for suicide in Okinawa Prefecture, as well as to derive "suicide prevention" and "mental health promotion" information from Okinawa, which is world renown for longevity.

The subjects were elderly citizens over the age of 65 living in Akita Prefecture (1425 citizens) and Okinawa Prefecture (160 citizens). The questionnaire used in the survey included items for social support and depression (CES-D), as well as IADL.

52.9% of Akita Prefecture subjects and 20.3% of Okinawa Prefecture subjects lived with a three generation family, while 6.7% in Akita and 27.5% in Okinawa lived alone. When asked about stress coping strategies, 26.3% replied that they "endure the burden", which is 2.5 times more that then national average for the same item (Ministry of Health and Welfare, 2000). 25.4% of Akita citizens and 20.3% of Okinawan citizens scored higher than 16 on the depression scale (CES-D), and 13.3% of Akita citizens, verses 7.6% of Okinawa citizens scored higher that 21 on the same scale.

Further, multiple regression analysis suggested that factors relating to the CES-D in Akita were, living with a son, role in society, emotional support from people other than family members, and participation in cultural activities, while factors relating to the CES-D in Okinawa were sleeping conditions, state of health, and support from family members.

In addition, 62.6% of elderly Okinawan citizens communicated with friends on a daily basis and received support from the community, suggesting that personal relations play a large part in mental health and psychological well being.

平成13年度～平成15年度科学研究費補助金基盤研究（C）(2) 研究成果報告書

高齢者自殺の抑制・促進にかかわる心理社会的要因の検討

目　　次

はしがき

研究組織および研究費

研究発表

Abstracts of Research Project

Ⅰ章　秋田県由利町における調査結果

秋田県由利町における高齢者の精神的健康とその関連要因 …… 1

1．緒　言

2．対象および方法

3．結　果

4．考　察

Ⅱ章　沖縄県本部町における調査結果

沖縄県本部町における高齢女性の精神的健康とその関連要因 …… 25

1．緒　言

2．対象および方法

3．結　果

4．考　察

Ⅲ章　高齢女性の自殺の抑制・促進要因

高齢女性の自殺の抑制・促進要因～両地域の比較～ …… 43

1．はじめに

2．比　較

3．考　察

4．まとめ

文　献 …… 57

資　料 …… 61